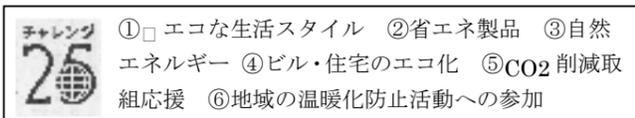


地で異常気象の増加、干ばつ、氷河の後退、海面上昇等が見られているが、地球の平均気温は人類の存続の限界の先に向かって異常な速度で上昇している。一方、温暖化は予防的な性格を持つため危機意識を持ちにくく、又現状社会の発展を支えている化石燃料の使用削減を必要とするため、自国の利益中心に考え勝ちである。しかし、世界の空は繋がっており、その対策は全世界共通の課題である。科学者の声を真剣に聞き、先進国、開発途上国は共に「共通だが差異ある責任」を持ち、意欲的な削減目標に合意し、対策を推進していかないと人類は滝に落ち共倒れとなる。

4. これからの日本の対応

日本のCO2の排出量は世界全体の僅か4%、日本だけが如何に頑張ってもその効果は限定的。しかし、開発途上国の経済成長、人口増加が続く中、将来的な食糧、資源確保だけを考えても日本の温暖化の危機は深刻である。25%削減をテコに世界の世論をリードすると共に温暖化対策のモデルを早く作り、世界に率先垂範することは、次の世代のため、日本が生き延び、世界を救う道である。京都議定書の6%削減に続き、中期25%、長期80%削減のハードルを国を挙げて越えていかねばならない。厳しい目標や危機は飛躍の原動力になる。日本人は追い込まれると強い力を発揮するが、温暖化はある点を超えると暴走の可能性があり、追込まれてからでは遅い。国は、中期目標実現のため国民運動として昨年12月より、チャレンジ25キャンペーンを実施し協賛者を募集している。運動分野は次の6つである。

(<http://www.challenge.go.jp>)



右の2表は25%削減を達成するために検討中の政府原案（日経新聞2010.2.2）である。25%削減の内、最低6割の15%は国内で削減し、残りは排出枠を海外から購入としている。部門別排出量の目標達成には各部門及び相互協力による全

体的な削減努力が不可欠である。家庭部門の削減が最も厳しく、2005年比では34~45%となっている。目標をどのように実現していくか懸念する声も多いが、政府は25%削減を実現するため温暖化対策基本法案（右表）を3月12日に閣議決定し、今国会に提出した。基本法案では、中長期的な温暖化対策の道筋を示す「基本計画の策定」を明記している。各党は独自の削減案を持っており、国会での議論が注目される。

愛媛県は本年2月、地球温暖化防止実行計画（温暖化ガスを中期15%、長期70%削減）を発表した。（インターネットで公表）新居浜市でも地球高温化対策地域協議会を中心に行政、市民、事業者等が互いに協働して地球高温化防止に積極的に取り組んでいくことを期待したい。

（谷川 璋一）



（月刊廃棄物 2009.11）

	2020年 (百万トン)	1990年 比(%)	2005年 比(%)
産業	366~399	-17~24	-12~19
家庭	88~104	-18~30	-34~45
オフィス・店舗	130~156	-4~20	-27~36
自動車など運輸	162~186	-14~25	-34~44
国内全体	905~1026	-15~25	-24~33

■家庭部門 ・建築物の高断熱化・・・新築はすべて最高基準、既築は一部改修 ・太陽熱発電の推進・・・住宅は1000万世帯以上 ・省エネ家電の普及・・・エアコン効率は33~37%向上、照明効率は40%以上
■運輸部門 ・次世代自動車の普及・・・新車販売に占める比率 ハイブリット車:60~85%、電気自動車5~15% ・乗用車、貨物車の燃費向上・・・2~4割以上

・温室効果ガスの排出量を1990年比	
2020年までに25%削減	
2050年までに80%削減	
・一次エネルギー中の再生可能エネルギーの割合を2020年までに10%に	
・地球温暖化対策税(環境税)の2011年度実施検討	
・国内排出量取引制度を創設	
・再生エネルギーの全量買取制度創設	
・原子力にかかる施策は推進	

2 エコ生活のすすめ

エネルギーを効果的に使ってCO2を減らし、家計の節約になるような省エネ生活を楽しみながらやってみませんか。かけがえのない自然や環境を未来の子供たちに残すことは、今を生きる私たちの大きな責任ではないでしょうか。私たち一人一人が毎日の生活の中で資源を大切に使うよう心がければ「2020年までに温室効果ガスの排出量を25%削減する」という目標も達成できると思います。エネルギーを効果的に使って賢くシンプルな省エネ型ライフスタイルを目指しませんか。早寝・早起き、食糧の自給自足や地産地消を心がける。家電製品は省エネ効果の高いものを上手に使う。買い物はエコバッグを持参する等、無理をしないで少しずつ出来ることを増やしています。我が家で作った野菜をお裾分けするというエコ生活を通じて、人の輪が広がっています。（グループさつき 定岡 秀美）

3 豊かな水辺ネットワーク活動紹介

アウトドア大好き少年(?)だった僕が、今でも海や川が大好きで豊かな水辺を見ると人一倍感動する僕が、豊かな水辺(水)を大切にしながら、環境や平和を考え行動するプロジェクトをコーディネートできないかと思いつき立ち上げたのがこの団体です。ネットワーク「エコの実」の一部会のような存在で歩んできつつ、ジュゴンキャンペーンを支援したりしながらまる5年という月日が流れました。

自然に親しむことが、僕にとっては、環境問題に取り組むきっかけになったので、そういうきっかけ作りをしたいと主な活動をしてきました。

具体的には、八幡浜在住の水本孝志さんをお招きして自然観察会を行い、身近な自然に親しむ機会を持ったり(写真参照)、美しい水辺のイメージ作りということで、市民文化センター本館内の街づくり協働オフィスや登り道のいきいき産直市において、きれいな水風景の写真を展示やポストカードの即売会を行ったりしてきました。

水は全ての生命の源です。「水は方円の器に従う」という言葉にありますように、優しさや柔軟性の手本ともいえます。水辺を大切に作る取り組みをされてる方たちとつながりをもったりしながら、自然観察会など楽しい催しを企画していきたいと思っておりますので、是非ともご参加頂きたいと思っております。（内海 清慈）



連絡先：新居浜市西連寺町1-9-8
TEL：(0897) 44-5885
Eメール：setobun@mte.biglobe.ne.jp
<http://blogs.yahoo.co.jp/mizubenet>

~DVD貸し出しのお知らせ~

お待たせしました!! 吉田俊道氏(大地と命の会代表)をお迎えしての2度にわたる講演会の模様を収録したDVDの貸し出しを開始します。(無料) 受付場所: 市役所 環境保全課

「生ごみリサイクル、元気野菜作り」2009.7.11講演会
「生ごみ先生のおいしい食育」2009.11.21講演会